



エコアクション21
認証番号 0011154

2019年度 環境活動レポート

<対象期間：2019年10月 ～ 2020年9月>



株式会社 タムラ

2020年10月31日 発行

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 タムラ
代表取締役 田村 清孝

(2) 事業所の所在地

本 社（登記住所）	千葉県鴨川市滑谷777番地
マツダオートザム鴨川・修理部・総務	千葉県鴨川市滑谷68番地1
マツダオートザム館山	千葉県館山市高井800番地1
重機土木部・重機修理部・钣金塗装部	千葉県鴨川市滑谷690番地2
自動車リサイクル部	千葉県鴨川市坂東370番地2
石油部	千葉県鴨川市滑谷763番地1, 769番地

(3) 設立年・事業規模

設立年 1963年10月 1日
資本金 1,000万円
事業年度 10月～9月

売上総額 1,148 百万円 2019/10 ~ 2020/09

総称	部署および事業所	従業員数	延床面積	売上高 (百万円)
① MAZ 鴨川	マツダオートザム鴨川	3名	290.6㎡	339
	修理部	12名	400.9㎡	
	钣金塗装部	3名	238.9㎡	
② MAZ 館山	マツダオートザム館山	8名	419.0㎡	242
③ 重機土木事業部	重機・土木部	21名	3471.9㎡	430
	重機修理部	2名		
④ リサイクル事業部	自動車リサイクル部	6名	3,850.5㎡	51
⑤ 石油事業部	石油部	3名	626.1㎡	86

(4) 事業内容

- ① マツダオートザム鴨川、② マツダオートザム館山
自動車車検整備、一般修理、自動車钣金塗装、新車・中古車販売、保険代理店業務
- ③ 重機土木事業部
建設機械リース、建設機械点検修理、土木工事
- ④ リサイクル事業部
自動車解体業及び自動車解体部品販売
- ⑤ 石油事業部
石油類販売、レンタカー

(5) 事業詳細

- ③ 重機土木事業部
建設業許可 千葉県知事許可（般-2）第 34135 号
建設業の種類 土木工事業、とび・土工工事業
有効年月日 令和7年7月30日
業務実績（2019年度）
浄化槽設備工事およびシートパイル工事 36件
シートパイル打設工事 43件
クレーンおよびコンクリートポンプ車リース 1,761件

④ リサイクル事業部

自動車リサイクル法にもとづく許可の内容

- (1) 解体業 許可番号：第 20123001327 号（千葉県知事）
許可年月日：平成 23 年 4 月 18 日
許可に有効年月日：令和 3 年 4 月 17 日
- (2) 破碎業 許可番号：第 20124001327 号（千葉県知事）
許可年月日：平成 23 年 4 月 18 日
許可に有効年月日：令和 3 年 4 月 17 日
- (3) 引取り業者登録番号：第 20121001327 号（千葉県知事）
登録年月日：平成 23 年 4 月 18 日
登録有効年月日：令和 3 年 4 月 17 日
- (4) フロン類回収業者登録番号：第 20122001327 号（千葉県知事）
登録年月日：平成 23 年 4 月 18 日
登録有効年月日：令和 3 年 4 月 17 日

(6) 環境管理責任者及びエコアクション 2.1 推進委員

環境管理責任者

- | | | | |
|--------------|-----|-------|------------------|
| ① マツダオートザム鴨川 | 総務 | 小原 好一 | TEL:04-7093-1121 |
| 推進委員 | | | |
| ② マツダオートザム館山 | 営業 | 末吉 亮 | TEL:0470-24-0721 |
| 推進委員 | | | |
| ③ 重機土木事業部 | 課長 | 佐野仁昭 | TEL:04-7093-1127 |
| 推進委員 | | | |
| ④ リサイクル事業部 | 工場長 | 若菜昭宏 | TEL:04-7093-1315 |
| 推進委員 | | | |
| ⑤ タムラ事業部 | 所長 | 笠井昭宏 | TEL:04-7093-4295 |

2. エコアクション2 1 対象範囲

当社が取り組むエコアクション2 1 環境活動は、当社の全組織・全活動・全従業員を対象としています。

対象事務所※

マツダオートザム鴨川・修理部、マツダオートザム館山、
重機土木部・重機修理部・钣金塗装部、自動車リサイクル部、石油部
株式会社タムラ

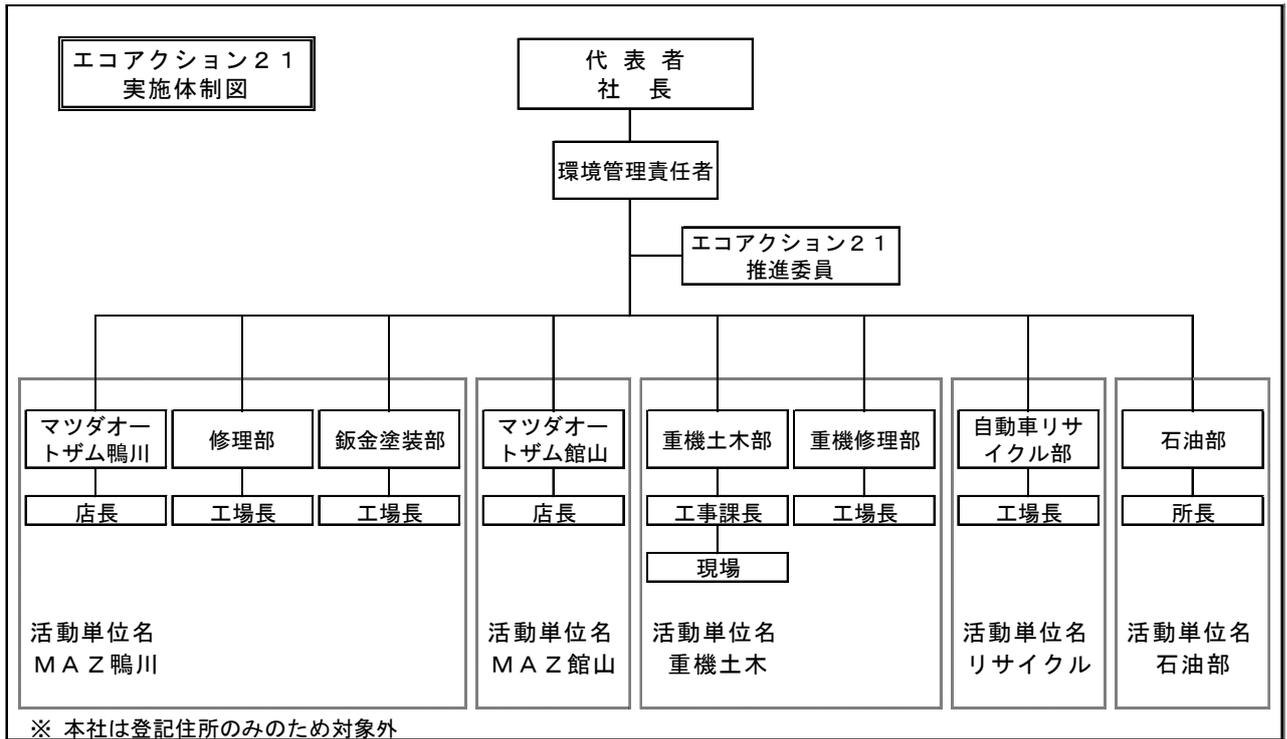
事業活動

自動車車検整備、一般修理、自動車钣金塗装、新車・中古車販売、
保険代理店業務、建設機械リース、建設機械点検修理、土木工事、
自動車解体業及び自動車解体部品販売、石油類販売、レンタカー

※・・・本社（千葉県鴨川市滑谷777番地）は、登記住所の為対象外

3. エコアクション21実施体制

(1) エコアクション21実施体制図



(2) 役割・責任・権限

代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な『人、設備、費用、時間、技能、技術者』を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの作成、公開 ・環境活動の実績集計 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
エコアクション21推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標・環境活動計画書原案の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動レポートの確認
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する環境訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の計画、実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動への参加

株式会社 タムラ 環境経営方針

株式会社タムラは、全従業員が日々の企業活動である自動車販売、点検修理、建設重機リース、土木工事、自動車リサイクル、石油類販売、レンタカー、損害保険代理店業務等を行う中で、次世代に豊かな地球環境を引き継ぐことを目指し、自然との調和を図りながら地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します。

地球環境保全を経営の重要課題と捉え、環境経営システムを構築運営し、全従業員一丸となり積極的に環境への取り組みを継続的に推進します。

1. 環境に関する法規制を遵守します。
2. 限りある資源を大切に、また二酸化炭素排出量の削減のため節電や車両使用時にはエコ運転に努めます。
3. 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・分別・再使用・再利用活動を推進します。
4. 水の使用量を把握し、上下・地下水の節水・排水量の削減に努めます。
5. 塗装や自動車整備に使用する化学物質の適正管理に努めます。
6. 低燃費・排出ガス車やリサイクル部品、エコオイルなど環境に配慮した製品の提供を推進します。
7. 工事現場にて、アイドリングストップに努めます。
8. 使用済み自動車リサイクル台数の向上に努めます。
9. 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
10. 全従業員に、この「環境経営方針」を周知徹底するとともに、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日：2013年9月30日

改訂日：2020年10月1日

代表取締役社長

田村 清孝



5. 環境目標

(1) 環境負荷の現状

(2019年10月～2020年9月)

項目	使用量	排出量
二酸化炭素排出量		576,030.6 kg-co2
電力	123,000.0 kWh	58,451.3 kg-co2
化石燃料		
ガソリン	23,310.1 <small>リットル</small>	54,106.7 kg-co2
軽油	174,605.6 <small>リットル</small>	457,308.3 kg-co2
灯油	2,306.0 <small>リットル</small>	5,743.5 kg-co2
液化石油ガス (LPG)	150.8 kg	420.8 kg-co2
廃棄物総排出量		20.1 t
一般廃棄物排出量 (焼却)		3.6 t
産業廃棄物量 (再資源化)		16.5 t
水の排出量		2,845.8 m ³
上水由来		975.0 m ³
地下水由来		1,870.8 m ³
化学物質使用量		539.0 kg
トルエン		168.0 kg
酢酸ブチル		98.7 kg
キシレン		45.4 kg
エチルベンゼン		226.9 kg

※産業廃棄物については、有価にて処理をしている為、現状実績のみ記載します。

※購入電力の排出係数については、国が公表する2016年度の東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数 0.486 kg-CO₂/kWh を使用する。

(2) 環境目標 (全体)

項目		単位	基準年実績	目標		
				2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量		kg-co ₂	651,358	644,845	638,331	631,818
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
電力		kWh	132,941	131,612	130,282	128,953
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
化石燃料	ガソリン ※1	ℓ	33,539			32,533
		基準年比	(2018年度)			97%
	軽油	ℓ	190,812	188,904	186,996	185,088
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
灯油	ℓ	3,264		3,199	3,166	
	基準年比	(2017年度)		98%	97%	
廃棄物総排出量						
一般廃棄物量		kg	3,195	3,163	3,131	3,099
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
産業廃棄物量 (再資源化率の向上)		%	96		96%以上	100%
		基準年比	(2017年度)		100%	100%
水の排出量 ※2		m ³	2,852			2,795
		基準年比	(2018年度)			98%
グリーン購入比率向上		%	80	80%以上	81%以上	81%以上
		基準年比	(2016年度)	100%	101%	101%
本業に係る環境配慮						
MAZ鴨川	化学物質使用量の削減	kg	198	196	194	192
		基準年比	(2016年度)	99%	98%	97%
MAZ鴨川	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	65	67%以上	70%以上	72%以上
		基準年比	(2016年度)	103%	108%	111%
MAZ館山	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	82	85%以上	87%以上	88%以上
		基準年比	(2016年度)	104%	106%	107%
重機土木	建設機械の自主点検整備実施率の向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2016年度)	維持	維持	維持
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	860	869	877	886
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
石油部	スタンダードのゴミ分別の実施率向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2016年度)	維持	維持	維持
軽油使用量の削減						
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定	km/ℓ	1.011	1.021	1.032	1.042
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0.129	0.130	0.131	0.133
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	104.4	105.4	106.4	107.5
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
	【車両】走行距離による燃費測定	km/kℓ	3,427	3,461	3,495	3,530
		基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%
【重機】稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	85.5	86.3	87.2	88.0	
	基準年比	(2016年度)	101%	102%	103%	
水使用量の適正把握						
石油部	洗車機使用回数による水使用量 ※3	回数/m ³	未把握	現状把握		
		基準年比	-			

※1 ガソリン使用量 該当部署：マツダオートザム鴨川、リサイクル部

※2 水使用量 該当部署：マツダオートザム鴨川

※3 2019年度より水排出量の原単位管理を開始

※化学物質の排出量、移動量は適切に管理していることを、定期的に確認する。

※一般廃棄物量、地下水の排出量については今後使用量の把握を行う。

※購入電力の排出係数については、国が公表する2016年度の東京電力エネルギーパートナー株式会社の調整後排出係数 0.486 kg-CO₂/kWh を使用する。

6.環境活動計画

項 目		活動手段及び方法	
二酸化炭素排出量の削減			
電力使用量の削減	MAZ鴨川	・空調温度を適切な温度設定にする。	
		・照明、パソコン等の機器類の電源管理をする。	
		・空調フィルターの定期清掃をする。	
	MAZ館山	・店舗照明のゾーン、時間帯管理	
		・エアコン温度設定の徹底	
	重機土木	・不要な電気のスイッチは切る。	
		・パソコンの電源管理	
		・コンプレッサーの電源管理	
	リサイクル	・パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定にする。	
		・夏季における軽装、冬季における重ね着の工夫。	
		・空気圧縮機の圧力。	
	石油部	・事務室、工事等の照明、不使用時の消灯。	
・店舗照明の時間帯管理			
・エアコン温度の設定 夏季28℃より			
化石燃料の削減	MAZ鴨川	・必要以上の電源を切る	
		・アイドリングストップの実施	
	MAZ館山	・エコドライブの徹底（法定速度の遵守及び空ぶかしの禁止）	
		・社用時エコドライブ実施	
	重機土木	・代車使用（お客様）時の依頼（エコドライブ、 返却時満タン返し）	
		・現場移動時のエコ運転	
	リサイクル	・揚重作業中のアクセルワークの注意	
		・アイドリングストップ等エコドライブの工夫	
	石油部	・使用済み車引取時の効率的ルート選択と段取り	
		・社用時のエコドライブ実施	
			・配達時、給油以外はエンジンを切る。
	廃棄物総排出量		
一般廃棄物量	MAZ鴨川	・紙類（機密文書・個人情報等）の適正処理の徹底。	
		・紙の使用量の抑制	
		・書類の簡素化・ペーパーレス化の推進	
	MAZ館山	・裏紙使用・両面印刷・両面コピーの推進	
		・紙類の再利用（裏紙の使用／段ボールの再利用）	
		・一般ゴミの分別、圧縮廃棄	
	重機土木	・事務処理のペーパーレス推進	
		・ごみの分別	
		・コピー用紙の裏紙活用	
	リサイクル	・ごみの持ち込みをしない。	
		・段ボールの再利用	
	石油部	・他事業部の段ボールを梱包材として再利用する。	
・紙類の再利用（裏紙の使用／段ボールの再利用）			
・一般ゴミの分別、圧縮廃棄			
産業廃棄物量（再資源化率の向上）		・事務処理のペーパーレス推進	
		・産業廃棄物（廃油等）を中間処理業者へ売却し産業廃棄物の再資源化に努める。	
水の排出量	全事業所	・地下水の使用量を把握する。	
		・手元ノズル等を使用しこまめに節水する。	
		・「節水ステッカー」を表示し注意を促す。	
グリーン購入比率向上	全事業所	・事務用品、消耗品購入時は「エコマーク」を優先する。	

本業に係る環境配慮			
MAZ鴨川 MAZ館山	化学物質使用量の削減		・環境に優しい塗料使用。
	低燃費・低排出ガス車登録比率向上		・低燃費、低排出ガス車の販売増に努める。 (SKYACTIV、アイドリングストップ車の販売比率を高める。) ・環境配慮型自動車保険の提案に努める。
重機土木	建設機械の自主点検整備実施率の向上		・計画的に建設機械の自主点検を実施する。 ・日常点検の実施。
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進		・1台でも多くの解体車両を増加させるための営業に努める。
石油部	スタンドヤードのゴミ分別の実施率向上		・徹底したゴミ分別の実施。
軽油使用量削減（軽油原単位管理）			
重機土木	【車両】 走行距離による燃費測定		・ラフタークレーン及び運搬工事車両等の走行距離による燃費を把握し、エコドライブの徹底に努める。
	【重機】 稼働時間による燃費測定		・ラフタークレーン及び建設機械等の稼働時間による燃費を把握し、優しいアクセルワークに努める。
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費		・効率のよい車両引取ルート選定により燃費向上に努める。
	【車両】 走行距離による燃費測定		・積載車（解体車両運搬車）の走行距離による燃費を把握し、エコドライブの徹底に努める。
	【重機】 稼働時間による燃費測定		・解体用重機等の稼働時間による燃費を把握し、優しいアクセルワークに努める。
水使用量削減（水原単位管理）			
石油部	洗車機使用回数による水使用量		・水使用量を洗車機使用回数により適正な管理を行い節水に努める。

※各事業部から発生する産業廃棄物のうち廃油・廃LLCは車両の点検整備結果として発生するため、削減目標と計画の策定は行わず適正保管と適正処理業者へ排出する。

※お客さま車両の洗車等に使用する地下水の使用量削減については、2013年11月設置の水量計で現状を把握する。

※一般廃棄物の排出量については、2014年8月から秤を使用して現状を把握する。

※再生可能エネルギーの太陽光発電をMAZ館山に設置し、東京電力に売電している。

※グリーン購入は、購入資材アイテム数に対するエコマークアイテムの比率で集計。

※低燃費・低排出ガス車登録比率は、車両販売数に対するアイドリングストップ・SKYACTIV搭載車の比率をいう。

7. 環境活動計画の取組結果とその評価

(2019年10月～2020年9月)

集計単位		二酸化炭素 排出量 kg-CO2	電力 kWh	ガソリン ℓ	軽油 ℓ	灯油 ℓ	水の 使用量 m ³	グリーン購入 実施率 %	廃棄物排出量	
									一般 kg	産廃再資源化 %
全体	基準	651,358	132,941	33,539	190,812	3,264	2,852	80%	3,195	96%
	目標	619,112	128,953	27,060	185,088	3,166	2,795	81%以上	3,131	100%
	実績	575,785	123,000	23,310	174,606	2,306	2,846	78%	3,628	100%
	増減率	93%	95%	86%	94%	73%	102%	96%	116%	100%
	評価	○	○	○	○	○	×	×	×	○
MAZ 鴨川	基準	43,460	43,818	4,958	2,171	1,989	563	81%	895	
	目標	42,156	42,503	4,809	2,106	1,929	557	85%以上	868	
	実績	51,134	47,183	7,273	3,162	1,516	548	90%	1,373	
	増減率	121%	111%	151%	150%	79%	98%	106%	158%	
	評価	×	×	×	×	○	○	○	×	
MAZ 館山	基準	26,093	25,339	5,046	581	216	647	56%	547	
	目標	25,310	24,579	4,895	564	210	628	65%以上	531	
	実績	17,572	18,661	2,455	1,037	171	661	66%	592	
	増減率	69%	76%	50%	184%	81%	105%	102%	111%	
	評価	○	○	○	×	○	×	○	×	
重機 土木	基準	503,446	35,423	16,722	170,484	0	486	89%	1,491	
	目標	488,337	34,360	16,220	165,369	0	471	85%以上	1,446	
	実績	448,883	31,847	12,510	154,083	0	464	100%	1,482	
	増減率	92%	93%	77%	93%	-	99%	118%	102%	
	評価	○	○	○	○	-	○	○	×	
リ サイ クル	基準	47,822	7,494	83	16,693	72	149	80%	45	
	目標	46,387	7,269	81	16,192	70	145	85%以上	44	
	実績	46,018	7,860	0	16,289	76	54	22%	23	
	増減率	99%	108%	-	101%	109%	37%	26%	51%	
	評価	○	×	○	×	×	○	×	○	
石 油 部	基準	17,444	20,867	1,088	883	987	1,006	100%	217	
	目標	16,921	20,241	1,055	857	957	976	85%以上	210	
	実績	12,427	17,449	1,072	34	543	1,120	100%	158	
	増減率	73%	86%	102%	4%	57%	115%	118%	75%	
	評価	○	○	×	○	○	×	○	○	

会社全体での実績／判定

(1) 全体（組織全体）

2016年度の実績を基準とし、1年間に1%の削減を目標に3年間の中期目標を策定いたしました。本年度で7年目の環境活動となりました。

取組結果ですが、組織全体で二酸化炭素排出量、電気使用量、ガソリン使用量、軽油使用量、灯油使用量の削減目標が達成となりました。昨年度のガソリン使用量見直しもあり、成果に繋がったのではないかと思います。

また、水の使用量に関しては、昨年MAZ鴨川の地下水浄化システム導入に伴い、見直しをした事により改善し目標達成となりました。しかし、MAZ館山及び石油部に関しては、洗車機使用回数の増加（お客様のご利用の増加）が目標未達成の要因と考えられます。

今後は、洗車機使用回数での水使用量の原単位管理を行い目標値の見直しを検討しつつ、また「エコ運転、丁寧なアクセルワーク」の意識付けも更に徹底し、来年度も引き続き環境負荷の削減に努めていきたいと思っております。

(2) MAZ鴨川

今年度は、多くの項目で目標未達成となりました。目標未達成要因に関して、電気使用量ではコロナ感染症の拡大に伴い換気をしながらのフロア及び各部屋の冷暖房稼働による増加と考えられる為、今後に関して見直しが必要である。また、ガソリン及び軽油使用量では、ロードサービスによる増加と考えられます。こちらに関しては、天災等により増加又は減少する為、目標値に対し難しいところであると考えられる。その中で今回、水の使用量に関して昨年からの地下水の浄化システム導入に伴い見直しをおこなった結果により目標達成となりました。年度毎に各項目の数値が把握できているので状況に応じ目標値の検討も含め、来年度も引き続き節約を確実に実施し、各種削減への取り組みを徹底して参ります。

(3) MAZ館山

今年度は、多くの項目で削減目標を達成いたしました。

但し、軽油の使用量は、年々増加しているロードサービスの出動量が影響し増加しております。水の使用量は洗車機利用回数の増加によるものと考えられます。

今後は、新型コロナウイルスとの共存時代にエコ活動を強化していくことは簡単なことではないと考えております。特に冷暖房を使用しなかつ換気をするという矛盾をしていけば、確実にエコではなくなってしまいます。だからこそその分出来る節約は確実に実施しなければこの活動をしていく意味がありませんので、見直しの必要があると考えられます。これからも社員全員で知恵を絞って活動に取り組んでいきたいと思っております。

(4) 重機・土木部

今年度は、全体的に目標を達成することができました。しかし、二酸化炭素排出量の割合が全体の約9割を占める軽油使用量に関して、遠方作業及び仕事量の増加により増減の可能性があると考えられます。但し、社員全員のアイドリングストップの意識改革により、思った以上に削減できたと感じております。今後も、引き続き「エコ運転、丁寧なアクセルワーク」を心掛けるように徹底をしていきたいと思ひます。

(5) リサイクル部

今年度は、全体的には目標達成できたと思ひます。しかし、軽油使用量に関しては解体作業及び車両運搬等の増加によるものと考えられます。今後も、引き続き解体作業等の入庫台数の増加促進、「エコ運転・丁寧なアクセルワーク」を心掛けるよう更なる削減を徹底していききたいと思ひます。

(6) 石油部

今年度は、総合的に評価すると目標未達成となりました。ガソリン使用量は、2%の増加です。要因として燃料の配達の増加等がありました。水の使用量は目標に対し15%の増加となりましたが、昨年同様に洗車機の使用回数の増加は、お客様のご利用増加が大きな要因と考えております。その為、最新型の洗車機導入をおこない1日当たりのご利用回数も確認しながら今後の見直しを考えていききたいと思ひます。今後も、引き続き「エコ運転・丁寧なアクセルワーク・節水」を心掛け、次年度は目標を達成できるよう徹底していききたいと思ひます。

集計単位	本業に係る環境配慮	単位	基準年実績	年度目標	実績	評価
MAZ鴨川	化学物質使用量の削減	kg	198	192	539	×
		基準年比		99%	281%	
MAZ館山	低燃費・排出ガス車登録比率の向上	%	65%	72%	82%	○
		基準年比		111%	114%	
重機土木	建設機械の自主点検整備の実施率向上	%	82%	88%	86%	×
		基準年比		107%	98%	
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	860	886	1182	○
		基準年比		103%	133%	
石油部	スタンドヤードのゴミ分別の実績率向上	%	100%	100%	100%	○
		基準年比		100%	100%	

(1) MAZ鴨川

今年度に関して、化学物質使用量の削減は目標未達成となりました。要因としては、台風被害による修復車両の増加及び、化学物質の成分の再確認による見直しをした結果、含量の増加と考えられます。また、低燃費車両については、目標達成をしておりますので、引き続き販売促進に努めていききたいと思ひます。

(2) MAZ館山

今年度に関して、販売的には多かったですのですが、低燃費車両の比率が少なかったことが要因として考えられる。しかし、販売する側としてもお客様のご要望に添える車両の販売をおこなっている為、年度により比率の上下があることを理解して頂きたいところである。今後も、引き続き低燃費車両の販売促進に繋げていききたいと思ひます。

(3) 重機・土木部

今年度に関して、建設機械の自主点検整備は目標達成となりました。来年度は、更に遅れのないよう引き続き自主点検整備をおこなっていききたいと思ひます。

(4) リサイクル部

今年度は、解体の為の入庫台数に関して目標達成となりました。こちらは、工場長の営業活動によるところが大きく反映されている。来年度も、引き続き入庫台数を増やす為、工場長だけではなく社員全員で営業等も含めおこなっていききたいと思ひます。

(5) 石油部

今年度に関して、スタンドヤードのゴミ分別は目標達成となりました。今後も、引き続きゴミの分別の徹底を社員全員でおこなっていききたいと思ひます。

集計単位	軽油原単位管理	単位	基準年実績	年度目標	実績	評価
重機土木	【車両】 走行距離による燃費測定	km/ℓ	1.011	1.042	1.345	○
		基準年比		103%	133%	
	【重機】 稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0.129	0.133	0.113	×
		基準年比		103%	88%	
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	104.4	107.5	104.1	×
		基準年比		103%	100%	
	【車両】 走行距離による燃費測定	km/kℓ	3,427	3529.8	12,546	○
		基準年比		103%	366%	
	【重機】 稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	85.5	88.0	48.4	×
		基準年比		103%	57%	

(1) 重機・土木部

今年度は、「車両」走行距離による燃費測定に関しては目標達成となりました。日々のアイドリングストップが結果として大きいのではないかと考えられます。「重機」稼働時間による燃費測定に関しては目標未達成となりました。要因としては、持ち上げる物の重量の重さによる事や、作業中のアクセルワークと考えられます。来年度は、アクセルワークの徹底をしながら数値の見直しを検討していきたいと思ひます。

(2) リサイクル部

今年度は、入庫台数及び解体車両台数による燃費に関して、目標未達成となりました。要因としては、入庫台数及び解体車両台数の増加によるものである。やはり増加する事により必然的に燃費は上がる為、目標値の見直しを検討したいと思ひます。「車両」走行距離による燃費測定に関しては、目標達成となりました。普段からアイドリングストップを心掛けていることによる結果と考えております。「重機」稼働時間による燃費測定に関しては、目標未達成となりました。こちらも上記で述べた通り、入庫台数及び解体車両台数増加によるものと考えおります。来年度に関しては、目標値の見直しを検討しながら、引き続き燃費の削減に心掛けていきたいと思ひます。

8. 次年度の取組

更なる環境負荷の削減を目指し、以下の取組みを重点的に行う。

- ・ エコ運転、丁寧なアクセルワークの徹底
- ・ 節水の徹底

《 次年度環境目標 》

項目		単位	基準年実績	目標		
				2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量		kg-co ₂	566,267	560,604	554,942	549,279
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
電力		kWh	123,000	121,770	120,540	119,310
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
化石燃料	ガソリン	ℓ	23,310	23,077	22,844	22,611
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
	軽油	ℓ	174,605	172,859	171,113	169,367
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
	灯油	ℓ	2,306	2,283	2,260	2,237
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
廃棄物総排出量						
一般廃棄物量		kg	3,652	3,615	3,579	3,542
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
産業廃棄物量（再資源化率の向上）		%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2019年度)	100%	100%	100%
水の排出量		m ³	2,861	2,832	2,804	2,775
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
本業に係る環境配慮						
MAZ鴨川	化学物質使用量の削減	kg	539	534	528	523
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
MAZ鴨川	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	82	83%以上	84%以上	85%以上
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	104%
MAZ館山	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	86	87%以上	88%以上	89%以上
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
重機土木	建設機械の自主点検整備実施率の向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2019年度)	維持	維持	維持
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	909	918	927	936
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
石油部	スタンドヤードのゴミ分別の実施率向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2019年度)	維持	維持	維持
軽油原単位管理						
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定	km/ℓ	1.345	1.358	1.372	1.385
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
重機土木	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0.113	0.114	0.115	0.116
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	109.9	111.0	112.1	113.2
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
	【車両】走行距離による燃費測定	km/kℓ	12,546	12,672	12,797	12,923
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	48.4	48.9	49.4	49.9
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
水原単位管理						
石油部	洗車機使用回数による水使用量	回数/m ²	2.04	2.02	1.98	1.92
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%

※購入電力の排出係数については、国が公表する2018年度の東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数 0.455 kg-CO₂/kWhを使用する。（環境省・経済産業省公表 R2.9.15）

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反訴訟の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の評価

法規制等の名称	要求事項	担当部署	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物収集業者の許可証確認 産廃収集運搬・処理業者との契約、許可証確認 manifestの交付、管理 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 自社による運搬時の表示、書類携行 	全事業場	○
使用済み自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	使用済み自動車の引取・フロン類回収・解体・破砕業者登録及び許可／登録／更新	リサイクル部	○
	再資源化預託金(自動車リサイクル料金)の預託有無の確認と、預託金の徴収	MAZ鴨川・MAZ館山・リサイクル部	○
	各工程移動時、移動報告の実施(電子manifestの管理)	リサイクル部	○
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> 道路運送車両の保安基準 道路運送車両の点検及び整備 道路運転車両の検査等 	MAZ鴨川・MAZ館山・重機土木部	○
自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量削減等に関する特別措置法 (自動車NOx・PM法)	<ul style="list-style-type: none"> 規制対象地域内の適合車による運行 規制対象特定地域への対象車両通行禁止 対象自動車を使用する事業者による計画の作成、定期の報告 周辺地域内自動車を使用する事業者による計画の作成、定期の報告 	全事業場	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRT法)	第1種指定化学物質の排出量、移動量の記録 年間総排出量、移動量が1,000kg以上あれば報告	MAZ鴨川・MAZ館山・重機土木部	○
浄化槽法	公共用水域等の水質保全等の観点から、浄化槽の設置、保守点検、清掃を行う。	全事業場	○
騒音規制法	敷地境界での騒音レベルの遵守	リサイクル部	○
振動規制法	敷地境界での振動レベルの遵守	リサイクル部	○
水質汚濁防止法	排水濃度の測定・記録 事故時の措置届出	全事業場	○
大気汚染防止法	低排出ガス車の運用と販売	全事業場	○
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律 (オフロード法)	基準適合特定特殊自動車使用	重機土木部・リサイクル部	○
特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律 (フロン回収破壊法)	<ul style="list-style-type: none"> 第二種特種製品からのフロン類回収 引取、回収業の登録／更新 回収設備機器の保全 回収実績記録の報告 回収フロン類の破壊業者への引き渡し 	リサイクル部	○
消防法	危険物保管の指定数量以上の許可申請 危険物保管の指定数量以上の危険物取扱者の届出	全事業場	○
グリーン調達基準	自治体、元請けのグリーン調達基準	全事業場	○

(2) 違反・訴訟の有無

過去3年間以上、環境関連法規等の違反はなく、訴訟および関係機関からの指摘も受けていない。

10. 代表者による評価・見直し

《 環境活動の評価 》

エコアクション21を取得し早や7年が過ぎました。当初はどのようにしていいか手探りでの取り組みでしたが、今では活動方法や取り組み方が社員に浸透してきております。

また、今年度の活動結果に関して、年々各項目が削減となり目標達成となりました。これも、社員一人一人の意識改革により結果として削減に至り喜ばしい事であります。

取り組みとしては、今年度に目標値の見直しを行った「ガソリンの使用量及び水の使用量」はガソリン使用量が目標達成。水の使用量は目標を達成できませんでしたが、来年度より洗車機使用回数での水使用量の原単位管理をおこなう事で、より明確な水の使用量が計れるのではないかと思います。

まとめに、各部署で仕事量が増えて多忙の中にも関わらず、環境活動への取り組み意識を持って仕事が出来ていると思われれます。引き続き活発な環境活動を行っていきたいと思います。

《 今後の対応 》

今後の対応としましては、2016年に目標設定を作成した三か年計画も終わりましたが、目標未達成となった「水の使用量及び産業廃棄物の再資源化率向上」を中心に、2019年度の実績結果を基準値とした目標設定をおこなう。

今年度に環境経営方針の改訂により追加表記した

「7. 工事現場にて、アイドリングストップに努めます。」

「8. 使用済み自働車リサイクル台数の向上に努めます。」

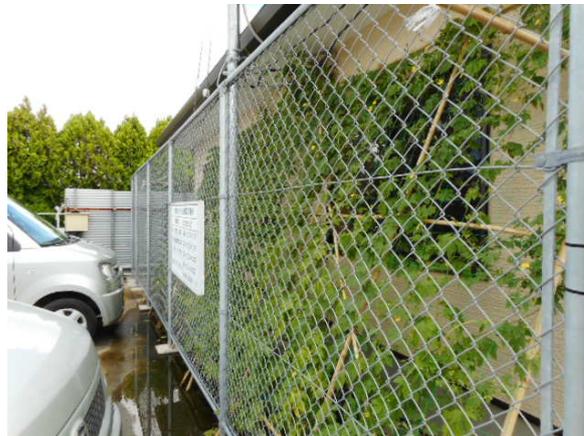
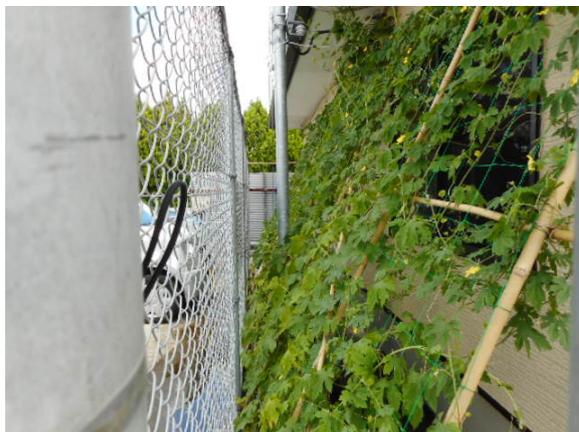
を社員に浸透させ、今まで培ってきたものを土台とし、引き続き環境活動及び社会貢献の実施を取り組み、環境負荷低減に貢献したいと思います。

11. 環境保全活動のご紹介

《 緑のカーテン 》

夏場、「緑のカーテン」を設置し西日による室温上昇を抑えて、空調による電気使用量を抑制。

リサイクル部



《 清掃活動 》

会社周辺の清掃活動（地域のゴミゼロ運動に協力参加）に全部署で参加しています。

重機部・石油部



マツダオートザム鴨川・館山店

